

A composite image featuring four conductors in formal black tuxedos with white bowties. They are arranged in a layered, overlapping fashion against a background of flowing, wavy blue and green lines. The conductors are captured in various expressive poses, some with batons raised. The names of the conductors are printed vertically next to them.

Fabio Luisi

Tugan Sokhiev

Tarmo
Peltokoski

Herbert
Blomstedt

最も心に残った

N響 | コンサート&ソリスト 2024-25

1997年に「N響ベストコンサート」として始まったファン投票企画「最も心に残ったN響コンサート&ソリスト」。2022-23シーズンより定期公演のシーズンに合わせる形でリスタートし、今回で26回目を迎えます。

2024-25シーズン(2024年9月~2025年6月)の定期公演から、演奏をお聴きになったみなさまに投票をお願いし、今回は約1000件もの票が集まりました。みなさまの思い出がどのように順位に反映されているでしょうか。投票にご参加いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。

最も心に残った

N響コンサート 2024-25

第1位 | 6月Cプロ | 第2041回
2025年6月20、21日

コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35

マーラー／交響曲 第1番 ニ長調「巨人」

指揮：タルモ・ベルトコスキ ヴァイオリン：ダニエル・ロザコヴィッチ



N響のこれからの100年を、未来を思って、第1位に選ばれました。音楽性に年齢は関係ありませんが、これらもたびたび客演いただいて、若き指揮者ベルトコスキさんとN響でしか出せない演奏を目指してほしいです。(@schwarz_main)

コルンゴルトの《ヴァイオリン協奏曲》がいつも聴くこの曲とは全く違ったものに聞こえました。マーラーでもニュアンスの付け方が天才的です。素晴らしいコンサートでした。(中西裕)

若きマエストロとソリストが新鮮。2人とN響がどう融合するかワクワクしながら聴きました。いつもの定期より若い観客も多く、日本のオーケストラの未来を期待できると思えた良い演奏会でした。(くまあ)

始まったのかわからないほどの小さな音からはじまり、強弱に富んだ音作りで印象的なこっごやファンファーレ、チェロのフレーズが際立ったように感じた。強い音が欲しいときに体の入った臆さない指揮を行っていて、25歳の若さと自分の指揮に対する自信を感じた。最小音をかなり小さくする試みはかなり新鮮であり、メリハリある指揮は偉大な指揮者になる未来を感じさせるものがあった。(アオガメ)

25歳にしてN響を自在に操る俊英。次回の登場が今から待ち遠しく思える指揮者を知ることができてうれしい。(山田 淳)

今まで50年クラシックを聴いて最高の天才に出会った。後ろ姿にカラヤンの面影を見た思い……こんなことがあるとは……凄すぎる……絶句。(ヘルベルト)

ベルトコスキさんが振った時、今までN響から聴いたことのない音がしました。いつもとは異なる角度の素晴らしい演奏でした。私と同年という親近感もあります。(Rdu)

とにかく凄まじい、圧倒的なマーラーでした。若い指揮者でしたが、こんな演奏をするなんて信じられない。この先どうなるのが楽しみです。(阿部正洋)

マーラーの《交響曲第1番》は特に好きな曲で、耳にタコができるくらい聞いていますが、ベルトコスキさんの演奏には今までにないような歌い方が散りばめられ、小さな波が多く押し寄せて最後には大きな波になったような演奏に思いました。今後も是非招聘・共演をいただき、また新しい演奏を聴きたいと、期待に溢れたコンサートでした。(ぶっちゃん)

第2位 | 10月Cプロ | 第2021回 2024年10月25、26日

シューベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」

シューベルト／交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット



いつも眼差しに曇りのない少年のような音楽をつくるMo、ブロムシュテットが、《グレート》では老境から昔話をするような音楽を紡ぎ出していて感無量だった。(吉岡直哉)

とにかくN響メンバーの気合の入り方が尋常でなかった。御大はいつものように一音一音丁寧に音を紡いでいく。演奏者はマエストロの一振り一振りを噛みしめるように受け止めて的確に表現する。これだけの名演に立ち会えたこと自体、本当に幸運だった。(今井達朗)

第3位 | 1月Aプロ | 第2028回 2025年1月18、19日

ショスタコーヴィチ／交響曲 第7番 ハ長調 作品60「レニングラード」

指揮:トゥガン・ソヒエフ



ソヒエフの《レニングラード》を楽しみにNHKホールに行きましたが、待っていたのはまだ私の知らない音楽の世界でした。迫力の中にも喜びや悲しみそして平和な日常に迫る戦争への恐怖、さまざまな感情が入り混じったソヒエフにしか奏でられない特別な《レニングラード》。忘れられない演奏会です。(Ayumu)

今までショスタコーヴィチは難解で苦手だったが、この演奏を聴いて激しく心を掴まれとても感動したため。(Y)

平和への祈りが、重厚なメロディとそれを奏でる真摯な演奏から伝わってきました。心の奥に伝わりました。素晴らしかったです。(轟 晴美)

第4位 | 10月Aプロ | 第2020回 2024年10月19、20日

オネゲル／交響曲 第3番「典礼風」

ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット



演奏が終わったあと、ゆっくりと腕を振り下ろすまでの時間に、会場全体が張り詰めた静寂に包まれました。音は止んでいるのに、音楽はまだそこに生きていて、指揮者の一挙手がその残響を薄いているかのような感じ。あの無音の時間にさえ、音楽が「鳴っている」と感じさせられた体験は、今でも忘れられません。(岸本泰樹)

昨年聴けなかったブロムシュテットが無事来日されただけでも嬉しかったのですが、音楽が若々しく進んでいき、川崎コンマスが引く張るN響からも分厚い音が出ていて、感動しました。(つぐ)

第5位 | 5月Aプロ | 第2036回 2025年4月26、27日

マーラー／交響曲 第3番 ニ短調

指揮:ファビオ・ルイーゼ メゾ・ソプラノ:オレシア・ペトロヴァ
女声合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団



楽器ごとに見せ場、聴かせどころがあり、統一感があるサウンドが素晴らしい。特に第6楽章の紡ぎ出すようなハーモニーはひとつの宇宙であった。(渡辺 淳)

ヨーロッパ公演の曲目でもあり、今シーズンN響の一番気合の入った演奏だったのではないかと思います。(大塩知弘)

ルイーゼ・N響・ソリスト・合唱それぞれの普段とは異なる気迫が凄まじかったです。特に最終楽章はNHKホールに一筋の光が差したように感じられ、非常に素晴らしいものでした。(サトシ)

第6位 | 9月Aプロ | 第2016回 2024年9月14、15日

ブルックナー／交響曲 第8番 ハ短調(初稿/1887年)

指揮:ファビオ・ルイーゼ



ほとんど演奏されない初稿をあえて取り上げ、生で聴けたという貴重な機会に感謝。改訂版、そして今回の新鮮かつ重々しい音楽との比較は、作曲者のこの作品に対する想いを更に強く受け止めることになった。(ハラマン)

ブルックナーの良さを最大限引き出していた。苦手だったブルックナーの印象が変わり、いつもと違った一面を見せてくれた気がした。はじめて2日間赴きました。(けんけん)

この曲の初稿がこれほど素晴らしい音楽に満ち溢れているとはまったく知りませんでした。先日発売されたCD、宝物とさせていただけます。(鎌谷朝之)

第7位 | 5月Cプロ | 第2038回 | 2025年5月30、31日

シューベルト／「ロザムンデ」序曲

ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25*

R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲

R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲

指揮:ギエドレ・シュレキエテ

ピアノ:藤田真央*

第8位 | 1月Cプロ | 第2029回 | 2025年1月24、25日

ストラヴィンスキー／組曲「フルチネツラ」

ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮:トゥガン・ソヒエフ

第9位 | 1月Bプロ | 第2030回 | 2025年1月30、31日

ムソルグスキー(リャドフ編)／

歌劇「ソロチンツィの市」—「序曲」「ゴバック」

バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番

ドヴォルザーク／交響曲 第8番 ト長調 作品88

指揮:トゥガン・ソヒエフ

ヴァイオリン:郷古 廉(N響第1コンサートマスター)

第10位 | 6月Aプロ | 第2039回 | 2025年6月7、8日

リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲

ラフマニノフ／バガニニの主題による狂詩曲 作品43*

チャイコフスキー／交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」

指揮:ファンホ・メナ

ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*

ソリスト 2024-25

第1位 | 4月Aプロ | 第2034回
2025年4月12、13日

アントワーヌ・タメスティ(ヴィオラ)

ベルリオーズ/交響曲「イタリアのハロルド」



舞台袖から現れるパフォーマンス、ヴィオラの素晴らしい音色と音量に驚いたことは言うまでもありませんが、ソリストとオケのやりとりが素晴らしく、《イタリアのハロルド》という曲の真の魅力に気づくことができました。(秋本富雄)

音色も技術も圧巻で、没入感のある演奏でした。完全に曲に憑依していたし、ヤルヴィとのコミュニケーションもよく取れていた印象です。(ヘルベル)

曲の始めにソリストがいらないなんてとても驚きでした。そのあともちこち移動しながらの演奏、斬新でした。(戸邊徹雄)

第2位 | 5月Cプロ | 第2038回
2025年5月30、31日

藤田真央(ピアノ)

ドホナーニ/童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25



バリエーションのひとつひとつの個性が絶妙に表現されていて聴いていてとても楽しかった。藤田真央さんならではの演奏。(ぶっき)

満員のNHKホールでこんなにもピアノの音が美しく立ち、3階席までピアノニッショモが見事な音色で聴こえてきたことに驚嘆! ドホナーニの嬉しい変奏曲をシュレキータ指揮のN響とともに色彩豊かに雄弁に音楽を繰り広げた。アンコールのセヴラックも素晴らしかった!(元井亮一)

第3位 | 2月Aプロ | 第2031回
2025年2月8、9日

ラデク・バボラーク(ホルン)

R. シュトラウス/ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11



ホルンという楽器が、こんなに多彩な音がするとは知りませんでした。ホルンというひとつの楽器をここまで色々な音色に吹いてしまうその手腕に惚れ込みました……。 (とち)

あんな軽い調子で、高音も低音も、フォルテもピアノも、自在にホルンを吹きこなしてしまふなんて……! 終始ホルンが身体の一部に見えました。(安田源内大好き)

第4位
1月Bプロ | 第2030回
2025年1月30、31日
郷古 廉(ヴァイオリン)

パルトーク/ヴァイオリン協奏曲 第2番

第5位
6月Cプロ | 第2041回
2025年6月20、21日
ダニエル・ロザコヴィッチ(ヴァイオリン)

コルンゴルト/ヴァイオリン協奏曲
ニ長調 作品35

第6位
6月Aプロ | 第2039回
2025年6月7、8日
ユリアナ・アヴデーエワ(ピアノ)
ラフマニノフ/パガニーニの主題による狂詩曲 作品43

投票を通じて寄せられたみなさまの声

娘がオーケストラ部に入ったことで、夫のオケ熱も再燃、家族でたびたび聴きにうかがっています。団員のお名前もほとんど覚えていてN響オタクの娘に色々教えてもらいながら、ホールへ向かうワクワクした時間も毎回楽しみます。練習風景のSNSもいつも楽しみにしています。(岩崎美代子)

E席が安価なのでとても助かっています。知らない曲のプログラムでもお試しと思って行ってみたらすごくよかったなんてこともありました。(金井塚淳子)

今年のN響はヨーロッパ公演に向けてまさに飛躍していったように見える。ヨーロッパ公演に向けてN響が今までよりも一段階もう一段階とより良い演奏に向かっていく姿はもはや日本のN響はもとより世界のN響にふさわしいものだと思う。これからN響100周年に向けてとても楽しみです。(20歳/大学生)

子どもに誘われて定期会員になりました。いつもお隣のN響ファンの方とも知り合え、音楽の話題を拝聴するなかで、緊張なくコンサートを楽しめるようになりました。これからもますます音楽が好きになる予感です。(おねこさん)

10年ほど前にパーヴォ・ヤルヴィ指揮の《ドン・キホーテ》をテレビで観てからN響はよく見に行っています。コロナ直前のイギリス公演も、たまたまわたしがその時ロンドンに住んでいたため見に行きました。これからもいろいろな演奏を見られることを楽しみにしています。(吉井佐和)

私は最近インスタを見始め、以前は、「喋らない、笑わない」のではないかしら?と思っていた憧れのN響の方達が、演奏を離れるとあまりに普通の方々の感覚をお持ちなのと、更には上品なユーモアも備えておられるのを拝見できて、びっくりするやら感激するやらです。(viva Orch.)

昨年12月のN響の《第9》を鑑賞してから、クラシックが好きになりました。私は20歳で同じ年代でクラシックを聞く人は少なく、なかなか共感を得られない趣味ではあるのですが、クラシックが彩る生活を堪能できてうれしく思います。これから心も動かす音楽を期待してNHKホールに足を運びます。(MSK)

N響は私がもともと好きな曲、今まで聴いたことのない曲など、さまざまな曲目を演奏しているところが好きです。お目当ての曲があって聴きに行ったコンサートでも、ほかの曲の魅力に気づいたり、新しい発見があるので、予定が合う時に聴きに行っています。残念ながら予定が合わなかった時や、もう一度聴きたい曲があった時もテレビで放送していただけるのが良いです。(K.S.)

N響の定期公演は、故郷を離れ、東京の大学で学ぶ息子と、単身赴任で東京に暮らす私が、月に一度会って、音楽を楽しみ、その後で夕食を一緒に取る機会になっています。コロナが少し落ち着いた大学2年の春からはじまった楽しい習慣は、この春、息子が大学院に進学したことで、あと2年は続きそうです。(小島昭男)

招聘してほしい指揮者 ベスト5

- ① クラウス・マケラ
- ② タルモ・ベルトコスキ
- ③ パーヴォ・ヤルヴィ
- ④ ペトル・ボベルカ
- ⑤ サイモン・ラトル

招聘してほしいソリスト ベスト5

- ① 藤田真央
- ② 阪田知樹
- ③ ダニエル・ロザコヴィッチ
- ④ 務川慧悟
ユジャ・ワン